

上サロベツ自然再生協議会について

サロベツ湿原には、低平地におけるわが国最大の「高層湿原」と隣接する「海岸砂丘帯の砂丘林と長沼湖沼・湿原群」、「ペンケ沼と周辺の低層湿原」など、貴重な自然環境が残されている。しかし、周辺の土地利用の変化に伴い、湿原の地下水位の低下や乾燥化、地盤沈下が起き、高層湿原植生が減少してササやヨシ等が侵入するなどの現象が生じている。

平成 14 年度から、関係行政機関、地方公共団体、NPO、専門家等による「サロベツ構想策定検討会」が開催され、平成 16 年 9 月には「サロベツ再生構想」が策定された。

サロベツ再生構想が策定されたことを受け、平成 17 年 1 月に自然再生推進法に基づく「上サロベツ湿原自然再生協議会」を設立。

(国立公園であるサロベツ湿原と農地が隣接する北海道豊富町において、農業と共存した湿原の再生を検討。)

平成 18 年 2 月には「上サロベツ自然再生全体構想」が作成された。

第 1 回自然再生協議会（平成 17 年 1 月 19 日）

- ・協議会の設立
- ・全体構想の作成方法について協議

第 2 回自然再生協議会（平成 17 年 6 月 29 日）

- ・全体構想（素案）の協議

第 3 回自然再生協議会（平成 17 年 11 月 1 日）

- ・全体構想（修正案）の協議

第 4 回自然再生協議会（平成 18 年 2 月 2 日）

- ・全体構想（最終案）の協議、了承

上サロベツ自然再生全体構想 作成（平成 18 年 2 月）

第 5 回自然再生協議会（平成 18 年 7 月 13 日）

- ・国営土地改良事業における農業と湿原の共生に向けた実施計画（案）（緩衝帯・沈砂池）の協議、了承

「上サロベツ自然再生全体構想」の概要

自然再生の対象となる区域

豊富町地内の国立公園である上サロベツ湿原、および上サロベツ湿原区域の自然環境に直接的に影響を及ぼすことが考えられる範囲。

自然再生の目標

上サロベツ湿原の自然再生目標

・高層湿原の自然再生目標

国立公園指定時の植生や広がり状況を目標とする。

・ペンケ沼の自然再生目標

現況の維持（これ以上、埋塞が進まない状態）を目標とする。

・泥炭採取跡地の自然再生目標

開水面の閉塞を進め、湿原植生の再生・創出を図ることを目標とする。

現況を維持するエリアを一部に設定する。

・砂丘林帯湖沼群の自然再生目標

生態系の保持のために、水位低下の抑制を目標とする。

農業の振興に係る目標

・泥炭地の特性を考慮しつつ農地や排水路の再整備を行い、湿原と共生する酪農地帯としての農業の振興を目指す。

・「国立公園の自然と共存するおいしくて安心な豊富牛乳、農産物」というサロベツブランドの確立に繋がることを目指す。

地域づくりに係る目標

・自然再生の過程に触れること等を通じて、湿原を中心とした地域の自然環境を学び体験する場所として活用する。

・周辺の農地・農村は、人の生業と自然の関わりを学び、楽しむ場として活用する。

・豊富温泉を滞在拠点として活用する。

・地域住民の活動と連携して、地域の自然資源等の利活用による自然とのふれあい、エコツーリズム等を推進し、サロベツブランドの確立を図る。

自然再生協議会の構成員

個人(専門家含む) 31、団体 19、

関係地方公共団体 4、関係行政機関 5

合計 59(個人・団体) 平成 18 年 9 月現在

上サロベツ自然再生協議会



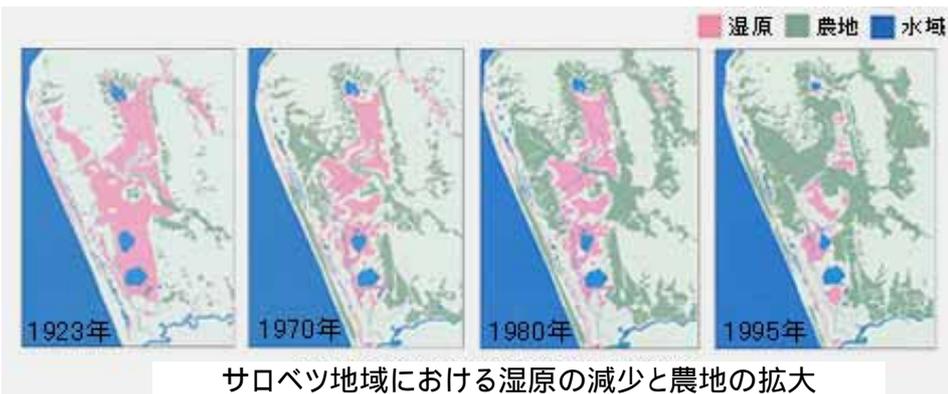
自然再生の対象となる区域(全体構想より)



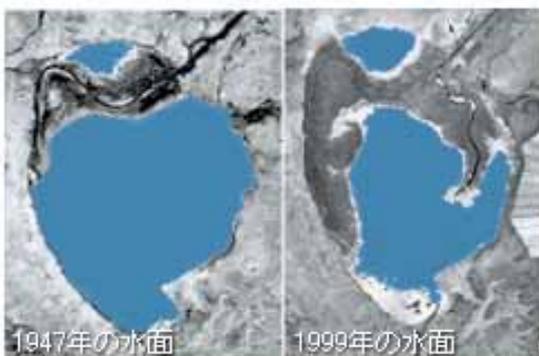
泥炭採掘跡地の開放水面



農地の地盤沈下
手前の牧草地在奥の湿原より
1mほど低くなっている



サロベツ地域における湿原の減少と農地の拡大



ベンケ沼の埋塞
上流からの土砂流入等により水面が約半分に減少



排水路の設置による乾燥化の進行
湿地に隣接する農地での排水不良